



国際会長 (IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

“Let Your Light Shine”

「輝かそう、あなたの光を」

会長 古田 和彦
副会長 秋元 美晴
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古賀 健一郎

アジア太平洋地域会長 (AP) 利根川 恵子 (川越)

“Be the light for change”

「変革のための光となろう」

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 立花 明美

東日本区理事 (RD) 山田 公平 (宇都宮)

“Instil Confidence in our Youth”

「未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

湘南・沖縄部部長 (DG) 黒川 勝 (金沢八景)

「初心に帰り、新たな船出を踏み出そう」

副題：「ワイズメンズクラブはYMCAとともに」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「楽しんで、できる範囲で、YMCA と地域に仕えよう」

<今月の聖句>

押川幸男

イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。

(ヨハネによる福音書 20 章 15-16 節)

今月のひとこと



「祈り」

古田 和彦

私が横浜 YMCA 職員を退職したのは、2001 年 9 月でした。在職中、多くのレインマンに助けられ、教えていただいたのですが、退職の時、当時常議員であった高田彰牧師から一冊の本をいただきました。この方は、長く日本キリスト教団鎌倉教会を牧され、横浜 YMCA

との合同前、鎌倉 YMCA 理事長をされた方で、今、千葉ウエストクラブでご活躍の高田一彦さんのお父上です。この方にいただいた本は、『希望と信頼に生きる—ウィリアム・バークレーの一日一章』です。著者のウィリアム・バークレーさんは、スコットランドの新約学者・牧師で、1978年77歳で亡くなった方です。高田先生に頂いて、22年以上たちますが、今でも毎日、一章ずつ妻と二人で読んでいます。その一部を紹介します。

【「祈り」

祈っても効き目がないと考えて、祈るのをやめてしまう人が非常に多い。だが、それは祈りについて誤った考えを持っているから、そういうことになるのである。祈りには祈りの法則がある。次の二つがそれである。

1. 祈りは神がわれわれのためになにかをなさることではなく、われわれが自分でできるように助けてくださることである。

神は、わたしたちが自分でちゃんとやれることを、わたしたちに代わってやるようなことは決してなさらない。これが祈りの第一法則である。神は簡単な逃げ道ではない。祈りはわたしたちのなすべきことを神に押しつけることではない。祈りは、神がわたしたちに自分でできるようにさせてくださる、そのための手段である。

2. 祈りは状況を変えず、われわれを変える。

状況は前と変わらない。だが、わたしたちは新しい勇氣と新しい力とそれに取り組む新しい能力とをもって、その状況に対応するのである。

祈りは、わたしたちが人生の困難に新しい仕方で対処できるように、助けてくれるのである。】

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

<横浜 YMCA 会員大会兼 2月第1 例会報告>

秋元 美晴

日時:2024年2月12日(月・休日)10:00~12:30
開催方法:湘南とつか YMCA と Zoom によるハイブリッド開催
出席者:横浜クラブ:<会場>大高、古賀、佐竹、田口、古田、
秋元 <Zoom>立花、齋藤

全体:<会場>114名、<Zoom>74アカウント

2月12日(月・休日)に2023年度横浜 YMCA 会員大会~ピースフォーラム~が、湘南とつか YMCA を会場とし、ハイブリットで10時から開催された。開会礼拝では、古賀会員事業委員長のお祈りにつき、工藤横浜 YMCA 理事長の挨拶があった。

次いで、特別講演が行われた。講師は恵泉女学園大学教授であり、著名な写真家・ノンフィクション作家でもある桃井和馬氏で、演題は「戦争」「平和」「未来」の作り方~ウクライナ戦争からパレスチナ・イスラエル戦争、そして地球環境を考える~であった。全体は4章からなり、第1章「未来への教育」では、コンゴ、フィリピン、ハイチなどの惨状が紹介され、マニュアルのない、これからの世界には、自分の頭で考え、自分の足で歩くことができる本物の知恵が重要であり、そのためには教育がもっとも効率的な未来への投資であると話された。

第2章「火に油を注ぐ」では、戦争の原因は「火に油を注ぐ」ことであるとし、土地(領土)・食糧・水・資源のようにお金になるものが「火」で、これに「油」である民族、国家、宗教が注がれることにより戦争が起こるといふ。第2章の例として、第3章では「ウクライナとパレスチナ」が取り上げられた。ウクライナには、「火」である食糧・資源・不凍港・地政学的な要衝がある。パレスチナは「旧約聖書」では約束の地であり、カナンと呼ばれた地で「乳と蜜の流れる地」である。パレスチナは人類にとっても、歴史の中の大国にとっても交易の要衝であり、また、水もある。これが「火」である。「油」である民族・国家、宗教は「火」をもとめ、戦争が起こる。「火」は地球環境と密接に関係している。

最終章「世界へ、地球へ、未来へ！」では、16歳の少女グレッタさんの国連への訴えが、ビデオで紹介された。また、SDGsで最も大切なのは、ウェディングケーキモデルの環境であるが、いまこそ無限に拡大する人間の欲望を制御する「本物の知恵」が必要な時代を迎えており、私たち大人は若者に何を伝えていくのか、それは「教育」であると主張された。最後に2020年4月のパンデミックの中で Andrea Bocelli 氏がミラノのドームの前で歌った Amazing Grace が流れされた。合間には、人の姿がほとんどない世界14の都市の映像が流された。まさしく「横浜 YMCA 会員大会~ピースフォーラム~」にふさわしいご講演であった。世界140か国以上の紛争地や共生の場を取材し、たくさんの風景をカメラで撮ってきた桃井氏でなければ語れない素晴らしい講演であった。質疑応答の時間があまりなかったが「YMCA に期待することは何か」という質問に「若者を育てることである」という回答が桃井氏からあった。

講演の後、広島ピースキャンプについて、YMCA 山手台学童クラブと YMCA 東かながわ放課後児童クラブの6人の小学生から平和祈念館などの見学をし、平和について考えたことの報告があった。続いて、ウクライナ・能登半島地震支援報告、YMCA 維持会員のご案内があり、最後に佐竹総主事から桃井氏のご講演の感想と感謝の言葉が述べられ、「横浜 YMCA~私たちの使命~」を会場の皆さんで交読し、終了した。大変充実したひとときであった。

ところで、今日の世界の現状を見ると、なんと祈らなければならぬことの多いことか。思いっただけでも次のようなことが頭をよぎる。国内では、今年1月1日に起きた能登半島地震、その被災者の生活が一日も早く回復できるように、特に、インフラの復旧が早くなされるように。13年前に起きた東日本大震災ののち、いまだ収まらない原子力発電所事故による放射能漏洩を抑え、福島の人たちが安心して生活ができるように。世界では、ウクライナ・ロシアの争いが強い者の力で押し切るのではなく平和裏に解決するように。イスラエルとパレスチナの人たちが恩讐を超えて、共生できるようになるように。飢餓や圧政に苦しむアジア・アフリカの人々に安定した生活がもたらされるように、などなど。

このような祈りの課題に直面するとき、わたしたちはどう祈らなければならないか。むなしいことなのか。パークレー先生はこのように祈るのではないだろうか。「能登半島地震被災者の方々の生活が一日も早く回復するように、神様、私たちにできることをお示してください。そして、勇気をもってそのために取り組むものとしてください。」

<今月の聖句>の解説

今年のイースター礼拝は、3月31日(日)です。2023年度最後の日をイースター礼拝を守り、聖餐の恵みにあずかり、2024年度の歩みを主の復活の喜びで始めることが許された年でもあります。様々な困難課題がある中で、マリアにも私たちにも個人的に声をかけてくださり、共にいてくださる復活の主イエスに信頼した歩みを進めたいと願います。

<2024年2月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 8名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 8名	67% (メーキャップ 0名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<3月の行事予定>

CS・GreenP・ワイズメネット

日	曜	時間	行事内容	場所
5	火	19:00	第101回Y-Ys協議会	中央YMCA
9-10	土日	13:00	東日本区次期会長・部役員研修会	東山荘
14	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央YMCA
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom



近況報告

『人間の想像を超えた恵み』

古賀 健一郎



2024年2月12日に開催された横浜YMCAピースフォーラムにおいて、【「戦争」・「平和」・「未来」の作り方～ウクライナ戦争から、パレスチナ・イスラエル戦争そして地球の未来を考える～】と題しての桃井和馬氏の講演には深く感銘を受けました。講演前に関連資料を通じて桃井氏のことを学んで参加し、その講演内容が一層心に響きました。

「かつて私たちは、21世紀になれば戦争はなくなると信じていました。しかしどうでしょうか。ウクライナの戦争、そしてパレスチナとイスラエルの紛争など。あらゆるところに火種が残っています。それだけではありません。今、地球環境も待たなしの状態を迎えています。戦争と地球環境、一見すると全く関係のないものですが、実は、それが密接にリンクしているということが、わかってきています。私たちはどのような世界に生きているのか。そして私たちはどのような未来を子どもたちに残していくことを、そのことを一緒に考えてみませんか？」と桃井和馬氏は私たちに問いました。

特に心に残ったのは、講演の締めくくりに、会場のスクリーンに映し出されたアンドレア・ボチェッリの『Amazing Grace』のパフォーマンスの映像でした。このパフォーマンスは、2020年4月12日、世界が新型コロナウイルスの恐怖に直面していた時に、ミラノ大聖堂からYouTubeで生配信され、クラシック音楽イベントとしては史上最多のライブ配信回数を記録しました。

(話題の動画) ⇒



【1番の歌詞】

Amazing grace how sweet the sound. That saved a wretch like me. I once was lost but now am found. Was blind but now I see.
(驚くべき神の恵み、私のような者を救ってくださった何と美しい響き。かつて迷っていた私は、しかし救い出された。もの

が見えていなかった私も、今はしっかりと見えています) 桃井和馬訳

18世紀後半、奴隷商人から牧師になったジョン・ニュートンが、過去を深く悔い、同時に本当に大切なものを知ることができた喜びに溢れた内容で、世界でも最も親しまれている讃美歌として歌い継がれています。

この歌が持つ力は、単に音楽的な美しさだけではありません。ボチェッリ氏自身が12歳での事故により視力を失った経験があり、その個人的な試練と克服の物語が、『Amazing Grace』という曲の中で共鳴し、更なる深みを与えています。この讃美歌の『Grace』とは、ただの恵みではなく、『人間の想像を超えた恵み』というキリスト教の深遠な意味を持っています。これは、私たちが直面する困難や苦悩を超えたところにある、神の無限の愛と慈悲を示しています。桃井氏自身もまた、ジャーナリストとして多くの戦場や危機地帯を訪れ、生と死の真実に直面してきました。さらに、彼の最愛の妻を病気で失ったという個人的な経験は、過酷な現実の中での深い悲しみと命の尊さが、彼のメッセージに更なる重みを加えています。

こうした背景を踏まえると、クリスチャンの桃井氏が『Amazing Grace』を選んだ理由が明確になります。無人の都市の映像と共に流れるこの歌は、自然との共存の重要性を思い起こさせ、パンデミックだけではなく、戦争や紛争といった人類の試練においても、希望を失わず前向きに進むことの重要性を強調し、私たちに対して、神様の『人間の想像を超えた恵み』と救いのメッセージを伝えたかったと思います。神様は「あなたがたには世で苦難がある。しかし勇気を出しなさい。私はいつもあなたと共にある」と語られます。

キリスト教精神をもって『永遠の生命と平和』を追求し、人間性を尊重する地球社会を目指すYMCAの維持会員でもある私にとって、今回のピースフォーラムは非常に貴重な機会でした。

第二例会報告

大高 治

日時; 2024年2月22日(木)17:00-18:20

出席者; 秋元、大高、古賀、立花、古田

場所; ZOOM

古田会長のお祈りに続いて開始。

1、行事予定の確認

2月22日(木)から5月17・18(金・土)横浜クラブ5月第一例会(富士山YMCA・つづきクラブと合同)までを確認。

2、協議・報告事項

(1) 2月12日(月)YMCA会員大会を2月の第一例会とした。参加者は秋元、大高、古賀、佐竹、田口、古田。他斎藤、立花はZOOM。

(2) 3月例会;

・卓話者は賛育会の大江浩さん。テーマは賛育会「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」

新しい取り組みにつきゲスト・ビジターに声をかける。

・クロタカ夫妻の入会に向け、会則・会費等の説明と諸手続きを行う。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

<入会申込書>はクラブの所定の用紙に記入して頂く。

・区には「会員移動報告書」を提出する。

(3)4月例会

・クロタカ夫婦の入会式、又は YMCA/ワイズの説明(古賀ワイズにお願いしたい)

(4)5月、バス旅行(富士山1泊)、つづきクラブに合流

・5/17(金)AM バスにて出発・昼食・PM 富士山着。夕食バーベキュー

・5・18(土)朝食後バス出発・途中未定・・・夕刻までに帰宅。

・会費;10~15千円

・詳細はつづきクラブの計画を待つ

・ゲストにも案内したい。遠藤ワイズにはお願いする。富山姫路子様、中村常議員に参加したい意向あり。立花ワイズは車で参加の意向。その他クロタカ夫妻など。

・留学生は誘わない。17~18日は学校があり、学生は次週、富士山に行く予定。

(5)ブリテン3月号編集計画の承認

(6)「会費等に関する施行細則」の改定;7月の総会に上程出来るようにする。

以下主たる検討事項と合意事項;

・ペア会員を追加し、会費は1人月額3,000円とする。これを4月から施行出来るようにする。記述方法は斎藤ワイズに相談する。

「会費等に関する施行細則」に関する件

- ① 入会金は部が支払うことに決っているので、個人の納入は必要ない。
- ② 正会員は一般会員とペア(Pair)会員。ペア会員は2人組の入会者を言う。
- ③ 功労会員の会費は月額3,000円とする。
- ④ 若年層会員の会費;入会促進のため、月額2,500円とする。
- ⑤ 個人入会のYMCA 職員の会費も入会促進のため、月額2,500円とする。

「横浜ワイズメンズクラブ会則」に関する件

第4条「会員の入会」の第1項「・・・役員会は、本例会又は事務例会に3回以上出席した候補者を会員として受け入れるかどうかを決める」は厳し過ぎるのではないかというコメントが他のクラブから寄せられた。従来も3回以上出なければ、入会を認めないわけではなく、「2回の出席でも入会は認められて来た」ので、今後も柔軟に対応することに各位同意。

(7)次期役員

- ① 原則、今年度の役割の継続でお願いしたい。
- ② ユース事業委員は次期部長からの要請があり、古賀ワイズに担当して頂きたい。これに伴い、地域奉仕事業は齋藤宙也、国際・交流事業は秋元美晴各ワイズとする。

以上



担当主事 立花 明美

健康教育部は新年度電話受付が始まり、また春季入金受付は2月5日に始まりました。専門学校日本語学科では新規講師の採用試験を実施するなど、新年度準備が各事業や部門で始まりました。また、中央YMCAでは能登半島緊急街頭募金を2回実施し、合計78,030円を支援金として入金しました。

- ・2月1日(木) 常盤町町内清掃活動
- ・2月3日(土) 日本語学科 講師採用試験
- ・2月10日(土) 中華街春節賀詞交換会
国際情報ビジネス科入学試験
- ・2月12日(土) 会員大会~ピースフォーラムへ
- ・2月15日(木) 専門学校 避難訓練実施
- ・2月20日(火) 能登半島緊急街頭募金1回目
- ・2月22日(木) 日本語発表会
- ・2月23日(金) 能登半島緊急街頭募金2回目
- ・2月29日(木) 専門学校「みんなで遊ぼう会」

3月は、全体行事として新職員宿泊研修やチャリティゴルフ、修了式や卒業式が行われます。卒業する方と新しく加わる方がいます。

3月例会プログラム

日時: 3月14日(木) 18:30~20:00

場所: 中央YMCA・オンライン

司会 古賀健一郎

- 1. 開会点鐘および挨拶・・・古田会長
 - 2. ワイズソング・ワイズの信条・・・全員
 - 3. 今月の聖句・・・押川ワイズ
 - 4. ゲスト・ビジター紹介・・・古田会長
 - 5. 卓話
賛育会「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」
大江浩さん(賛育会ミッションサポート部長・
赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長)
 - 6. ビジネス・報告・・・古田会長
 - 7. *Happy Birthday* 秋元美晴、遠藤三起子、
古賀智子、佐竹順子、古田和彦
 - 8. 閉会点鐘・・・古田会長
- 例会報告: 古賀ワイズ

4月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央YMCA
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 立花 明美にご連絡下さい。

メール tachibana_akemi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080